

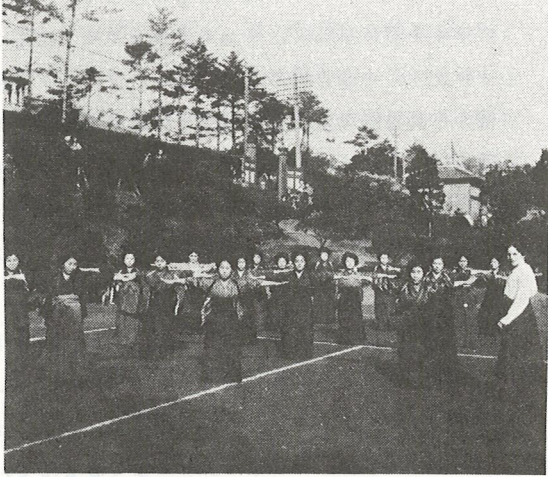
史料室だより No. 16

東洋英和女学院史料室委員会
発行 1982年10月1日

新井・水野先生のお話

(大正～昭和20年)

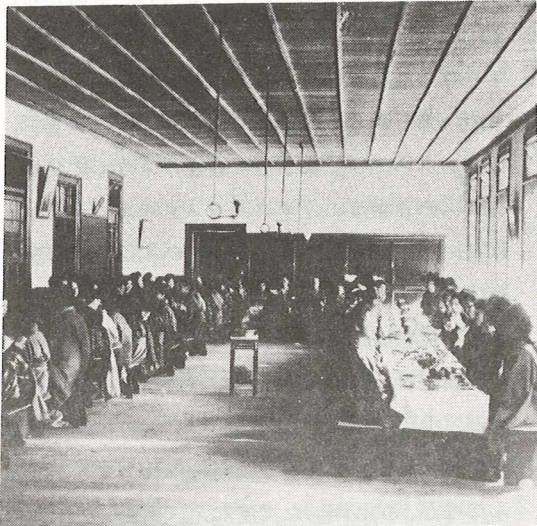
大正時代の学生生活から



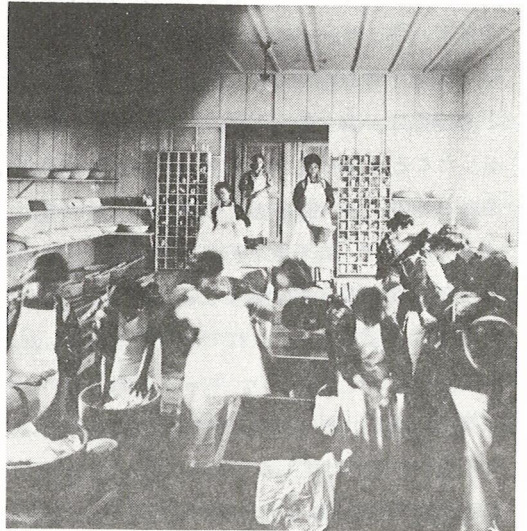
ミス・マッカーサーの体操の時間、井上とし子
秋山春子、高木喜美子さん達の顔がわかります。



ミス・ケギーと大正4年卒業の人々。テーブル・
マナーとお給仕の仕方を交替で習います。



月曜日は夕食が洋食で椅子に座って食べます。
1テーブル8人。真中の上級生がお給仕します。



寄宿生は金曜の夕方と土曜に、寄宿のお風呂場の
洗面所で洗濯をします。お風呂は級別に入ります。

新井竹先生は大正2年に英和に入り、寄宿生活をなさいました。大正9年に高等女学科を卒業され、第2回生として東京女子大に学ばれ、卒業と同時に英和に戻られ、教職につかれました。初めは小学科で教えられ、暫くして女学校で英語を昭和20年まで教えられました。戦後26年から36年迄再び中学部・高等部で教鞭をとられました。1981年10月、史料室委員芝原・朽木両名がお話を伺う時を得ました。先生はお一人ではとのことで、当時の同僚、国語科の水野富美子先生（昭和4年～20年在職）と御一緒に当時のお話を伺いました。その時の話を百年準備室の加藤がテープより採録したものの一部です。

学生の頃（大正時代）

◇日曜礼拝，少女教会のこと。

新井 ー 私が生徒の頃の日曜日は、幼稚園から高等科まで鳥居坂教会で倉長先生のお父様のお説教を聞きました。難しいのよ。テニスがとかインメモリアムがとかいう話ばかりなの。だからこの上（頭を指して）を通して自分の勝手なこと考えていました。小学校の子をそうやってやるのは可哀そうだということで、安藤教会に行ったこともあるし、少女教会が校内に出来てそこで礼拝をしたこともあります。ミス・フルトンがお説教をなさるの。日本語があまりお上手でないのよ。「カメサマハ、私タチノ子ドモデゴザイマス。」なんて言うのでみんな笑っちゃって。そしたら先生怒っちゃって……。それであやまりに行った。「先生怒らないで下さい。ちゃんと聞いていたから笑ったんで、聞いてなければ笑いません。」って。その頃の日曜日は忙しかったですよ。ご参考までに申しますけどね。いつもは六時起床だけど、日曜日は六時半に起床するの。三十分ですっかり仕度すると、大きい人は教会のコワイヤに入ってい

るので、一応ここで練習に行くの。七時半から食事で、八時半に学校に行って、学校のサンデースクールがあるの。そこでミス・ブラックモアのお話があり、それが済むと十分位で列を作って麻布教会に行くの。下駄履かないでも渡り廊下で行かれるのよ。教会から帰ってくるともうお昼なの。お昼ご飯を食べると一時から小会というのがあるの。これはメソヂスト特有のものらしくて、生徒の学年を縦に割って、ミス・ブラックモアの小会、小林先生の小会というふうに分かれていて、幼稚園から高等科の生徒まで属しているの。そこで感話をしたりして……。小会が二時に終ると、大きい人は町のサンデースクールに教えに行くの。行かない人は「お静か時間」それが一時間半。本を読むって言っても、それこそ「喜びのおとずれ」か「教会時報」なんてものしかないから。寝れば良いんだけど、子どもだからそんなに寝られもしないからただじーっとしているの。幼稚園の子なんか一時間半音をたてないようにしてるなんていられないわよ。人のお部屋を訪問してもいけななし。手紙は書いてもいいんだけどお金をもらう時ぐらいしか家に手紙を書きやしない。五時からは歌の時間でそれは楽しかった。西洋の先生が弾いてくれて日本語の歌と英語の歌をチャンボンに歌うの。六時から夕飯。それが済むとクラス会といってクラスだけで集まって勉強じゃなくて又感話をやったりするの。サンデースクールに行った人は良いけど、行かなかった小さい人はその後又、夜の教会に行くの。一日中なので、普段の日よりずっと疲れましたね。寝るのはいつも九時半だけど、日曜日は九時にもう寝なければいけないの。お部屋の中の電灯なんか無いのよ。電灯は廊下にあったんだから。まあ寝るより他に仕方がなかったんだけど、忙しかったですねえ。大きい人でコワイヤに入っている人は、教会が済んでも教会の青年たちと合わせるんで、そこで又音楽の練習して

すごく大変だったわね。

私たちの頃は通学生というのは歩いて通える子しかいなかったの。それこそ大森とか魚藍坂下の子ども寄宿に入っていたの。私の組は十九人でしたけど通ってくる子は二人で、あとは皆寄宿にいたの。先生の部屋だけじゃなくて、上級生の部屋もありました。何しろ上級生は下級生の面倒をよく見たんだから。洗濯してやったり、足袋継ぎしてやったり辛かったわ。私の世話した中におしっこする子が出て、朝の勉強時間が決まっているから少しの時間も惜しいのに、それを片付けなくちゃならないの。本も読めなくなっちゃうの。泣きの涙で布団洗ったり干したりしたわ。四階は祈禱室だけどそこに濡れたお布団干しに行ったのよ。

◇修学旅行のこと

委員 — 修学旅行はいつ頃からあったんですか？

新井 — そもそも初めは静岡英和に泊りに行ったの。次は甲府の英和に行ったり、甲府から来てたりしたのを、私の組から日光に行きました。

委員 — それはどうやって決めたんですか？

新井 — さんざん私達が連れてってくれて騒いだのね、学校にはそういう方針がなかったから。担任の酒井先生が校長先生を説いて下さったんでしょ。クラスは二十人で、ミス・テートと酒井先生が付いて行って下さった。三泊四日の旅行でした。

委員 — 運動会は？

新井 — そんなものなかったわよ。体操のお点なんてないんだから。通知簿に体操って科目がないの。唱歌のお点もないし。でもお習いはしました。

宮里先生のかるたは、その後水野先生より史料室にいただきました。



日光修学旅行 大正8年

教師になってから（昭和初めから20年まで）
◇教科のことなど

新井 — 私が英和に来た時は女学校令が布かれていない時で、まだめちゃくちゃなのね。私なんかはそれでも英文科卒業して来たんですよ。それで、小学校四年を受け持って算術を教えたり、体操もあってね、右向け右ってのは言えるのよ。だけどひっくり返るのがあるでしょ。廻れ右。いつ言ったら良いかわからなくてあれは困った。習字も教えましたし、歴史も教えました。

委員 — 小学校ですか、女学校で？

新井 — 女学校の先生なんかなれなかったの。英語のエの字も教えられなかったの。

水野 — 『五十年史』を見たけど、新井先生の所は小学部ってなっていてまるで小学校の先生みたいよ。あれはよっぽど古い時の記録を入れてるのよ。私には習字しかないの。私は習字が本職じゃないのよ。

新井 — その時に間に合わない所に人をつけるんだったのよね。

水野 — あなた宮里喜美子先生って大書家を知ってる？これには曰く因縁があるの。私は甲府の商家に生れ、父が教育熱心で、東京に何か新しいも



昭和初期英語教師

右から、ミス・ハミルトン、メガーフィン、ピンセント
今村、白鳥、新井、津川、若尾、秋山、大堀の先生方

のが出来るとすぐそれを取り寄せるの。ある時、「明治天皇御製かるた」という立派なものをとってくれて、子ども達でそのかるたをしたの。その字が実に流麗な素晴らしい字で、私は子どもの時から字が好きでしたから、それをお手本にして一生懸命習ってたの。それに小冊子がついていて、「このかるたの字は東京の東洋英和女学校の宮里喜美子先生という方の字で、この方は生徒を連れて大正天皇の皇太子時代に御前揮毫をした先生です」って書いてあったの。偉い方だなあと感じていたけど、まさか二十幾年経ってその先生のあとを襲おうなんて思わないでしょ。こちらの学校で、女高師の者を一人欲しいってお茶の水へお申し込みになって、学校からボンと話が来て面会に来たわけね。私はこの学校に何のゆかりもないのよ。そして藤田静雄先生と古い校舎の小さな教員室の横のお部屋でお会いしたら。「あなたの教えるものは国語、漢文、習字だけです。」って言うでしょ。

新井 — 誰れが教えていたのその頃？

水野 — みんな漢文は嫌だから今度来た人にさせようって言ったんですって。その時ミス・ハミルトンの前の先生はこれこれこうですって申しあげたら何とおっしゃったとお思いになる？「いいえ。英語の先生英習字教えます。国語の先生国語の習

字出来ます」だって。全く簡単明瞭よ。あゝその程度でいいのかと思って私お引受けできたのよ。まだあるのよ。漢文の時間でいうのはどういうわけだか四校時に置くのよ。お弁当は頂きました。後ろから日は照るで皆寝ちゃうのよね。これを起すのにはお化けの話をするより仕様がなからお化けの話をしたの。ちょうど漢文だったから『聊齋志異』なんてとてもいいお話があったの。そうすると皆嬉しなって起きちゃうの。そうしたら誰からどう伝わったのかやっぱりある日呼ばれて、「水野先生、あなたは漢文しないでお化けの話をするそうですね」って言われたの。「先生、お化けの話をするのは皆を眠気から覚ますためで、一時間寝るよりはまだいいと思ってやっているんです。」って言ったら、「以後いけません」って言われてしまいました。嫌だった私。

新井 — でも教えることは自分の習ったことを教えるんじゃないし、変な所だったけど先生方はみんな仲が良かったのよね。

水野 — 先生方の仲のいいなんてものは私家へ帰るより学校の方が楽しかったわ。

新井 — お昼のお食事の時に困ったことがあって言えば大抵解決がつくのよ。ほんとに家族のようだった。まあでもカリキュラムの話になると、全くちゃんと自分の習ったものを教えた人はお裁縫の先生位だね。よくもまあいたもんだと思うのよ。私は英語勉強してきたんだから。

水野 — あなただって最後は英語だけじゃない。

新井 — 私、当分英語の先生しなかったの。小学校ばかりやってたもの。恥しいけど聖書教えたこともあるの。全くあれは冒瀆だと思ってね、申し訳ないと今思うんですけどね。

◇お雑様のこと

委員 — 中学部には今でも立派なお雑様が残って
いまして、まだ毎年三月にちゃんと図書室で飾ら

せて頂いて居りますが、その時に鶴沼先生から、このお雛様は水野先生が買いにいらしたのだと伺いましたが、どういう経緯でお雛様をお入れになったか伺いたいのですが、お金はどこから出たんですか？

水野 — 校友会の文芸部からです。ところが文芸部だけでは足りませんでしたから、他の部から借りました。

委員 — どこに飾られたんですか？

水野 — 講堂の向って左の所に飾りました。三月の学芸会を雛祭と送別学芸会に変えました。お雛様ではえらい失敗しちゃって、やっぱりこれは私がクリスチャンでないからよ。甘酒を飾ったわけよね。甘酒はお酒だと思わないから。「ちょっといらっしやい。」って呼ばれちゃってね。

委員 — どなたに？

水野 — ハミルトン先生よ。「何ごとですかあなたは!!」私も抜けてるのよね。純日本人だから。もう一つ失敗があるのよね。お習字もただやたらにお習字してるのつまらないから、七夕の時には短冊や色紙に書くお稽古にもなると思って七夕をしたでしょ。中庭に大きいのを学年ごとに一本ずつ立たせて、野菜をお供えしたの。普通の家は野菜を供えるでしょ。そしたら又「来い」って。

「何でございますか。」「この学校で野菜を供えるのは感謝祭だけです。」大失敗。先生もこの人は困ったってお思いになったでしょう。まあそんなわけで少しは日本的なものをこの学校に入れようと思ひまして、お茶やお花のお稽古もしました。

委員 — お花はまだ続いております。課外として。

新井 — お茶はどうしました？

委員 — お茶はもうして居りません。お道具もありませんし。

新井 — お道具はどうしたんでしょう。おかしいわね。

水野 — ここに鳥居坂警察も入っていたんですよ。

ね。みんな「灰皿に使っていたよ」って言うのよ。

委員 — 先生はどなたでしたか？

水野 — 裏千家の渡辺宗星先生、作法室でいたしました。西洋の先生が足が痛い、痛いって言いながら習いましたよ。お花は草月流の福井草染先生、倉長先生と一緒に卒業した方。お花は先生方もなさいましたし、別科の人も来ました。

◇今村寿々代先生と学芸会のこと

委員 — さっき雛祭学芸会のお話が出ましたけど、それは先生が台本をお書きになったのですか。

水野 — 自分のシナリオはなかったですね。ここは演劇の伝統があるんですね。

委員 — 明治時代の大文学会のプログラムが残っています。

水野 — ここの建築資金を募金するために外でも二年間しましたね。青山の日本青年館で。その時の立役者が今村寿々代先生よ。あの先生はほんとうに先生じゃなくて演出家ですね。「生贄」とか「桃太郎」とか。その頃歌舞伎座が四円五十銭だったのに、自分たちの所は三円八十銭で満員だったから大した役者だなんて言って。

委員 — 今村先生は『日曜学校』という雑誌に脚本が載っています。

新井 — 加茂先生が（今村先生に）「あなた惜しいことした。方針を誤まった。あなた役者になればよかったよ、先生なんかならないで。」っておっしゃったのよ。

水野 — 今でいう演出家になればよかったのよね。

新井 — 賀原夏子なんて、あの人なんか結局今村先生にめぐり合ったからあゝなったのよ、きっと。蟹になっちゃって、こんな草の提灯持ってウロチョロしていたのがあの人の初舞台よ。それであの面白くなったんじゃないかしら。

委員 — 今村先生は英和の卒業生ですか？

新井 — 山梨英和女学校で、高等科をこちらでな

さったの。

委員 — 音楽を教えてくださいませんか？

新井 — 歌もしていたみたいねえ。いい声だから。何でも教える学校だから……。英語も音楽も。でも演劇っていうとあの方。山田先生が結婚して今村先生になったんだけど、家のことほっぽらかしてやってもんだから結婚がうまいことなくて又山田に帰っちゃったの。

水野 — 泊りこんでやっちゃうから。ご自分で衣裳も作るのよ。

新井 — それで英語の劇の時だってちゃんと出来るんだし、歌劇だってやるんだしね。まあ勿体なかったわけねえ。

水野 — 一番ご自分の才能を発揮できるいい時期にいらしたのね。基金募集の大ページェントをしなきゃならないでしょ。そういう時期にいらしたから学校もよかったし、先生もよかったの。普通の公立校へはお勤めの出来ない方。あまりに才女だから。昔は信者でないと担任が出来ないのよね。私たちは副担任。何をするかというと事務をするの。成績表を作ったり、書き写してソロバンを入れたり、それが私たちの役目。ほんとによく働きましたよ。今村先生はそういうことはあまりなさらないのよ。

新井 — 留学はこの学校からお遣わしになるのはミスばかりだったから、YMCAのミス・カフマンが引き抜いてアメリカにおやりになって……。



生 費 第一幕第一場

水野 — 何しろあんな波瀾万丈ないわね。女で。

新井 —ほんとに珍しい面白い人だった。

◇ミス・ハミルトンの帰国

水野 — 昭和17年というと戦時色、軍国調が濃くなり、西洋の先生は二番地の方の宿舎に入れられつまり軟禁されて、いろいろ御不自由でした。

新井 — お正月に式があった時、図書室で敵性国の人は来て欲しくないっておっしゃったの。ミス・キニーはお帰りになる時、自分は残っていたいけれども、年をとっているからみんなの迷惑になるから帰るっておっしゃって。それでも船がなくて、ちょうど郵船に知った方があって、私頼んで最後の船でお帰しました。

水野 — あの時、私鳥居坂署の特高を知っていたので、ずいぶん頼み込んだの。それであちらが軟禁状態を随分緩和してくれました。帰国なさる時は絶対見送ってはならないっていうこと、少しきびしく言えば裏門からそっと出なさい位のことでしたの。

委員 — どこが言ってきたんですか？

水野 — 鳥居坂の警察署。

新井 — 向うの家の土地が広がった時(昭和16年)先生が永い間望んでらした土地が増えたんだから見にいらっしゃいませんかって言ったら、「行ったらみんなに迷惑がかかるから」って絶対お出にならなかったのね。

水野 — さっきの話ですけど、絶対に見送り罷りならない、先生お一人で帰すようにということでしたけど、何度も頼みに行ったんですよ。「どうか非常に日本の女子教育に貢献のある方で、英和にはお古い校長先生で、これこれこうだ」ということを話したら、だんだんわかって頂いて、あちらの方も大分大目に見て下さっていたの。買物その他。お帰りの時はこの鳥居坂の両側に生徒が全員並びましたよね。ずっと坂の下まで。だからそれだけはせめてよかったと思うんです。

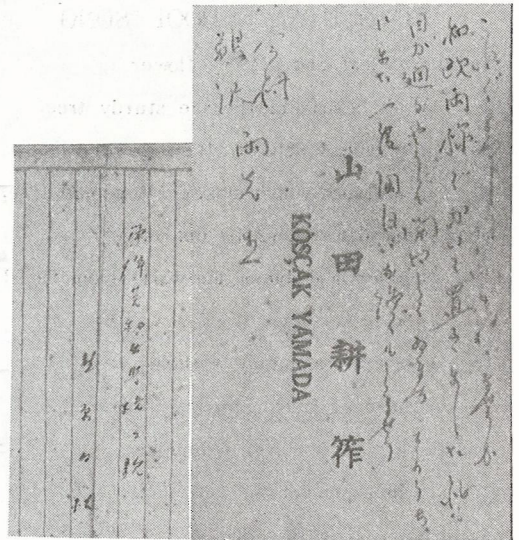
校歌のこと

中野 登美子

くすぶったクリーム色の壁にガーネット色の瓦をあしらった瀟洒な建物の中で、これ亦スクールカラーを効果的に配した制服姿の少女たちが、卒業する頃になってもまだ正確に歌うことの出来ないもの、それが東洋英和の校歌である。でも、この校歌を英和生はこよなく愛し、大切にし、誇りに思っているのである。ある修学旅行中、観光バスの中でなんか歌えない、勿体ない、と云った生徒たちがいた。詞も曲も洵に格調高い校歌である。伴奏のアルペジオは上へ上へと歌う者の心を昂揚する。伴奏なしでは歌えないと云ってもいい位である。

創立五十周年に当り校歌作成を決議、生徒一般から募集した処、最後の選に与ったものも、これを校歌とするには些か威風を欠くということで、当時、校歌の作詞、作曲に於てそれぞれ第一人者との誉れ高き北原白秋氏と山田耕作氏に依頼申し上げた処、快諾された。白秋氏は一日学校を訪ね、校舎、校庭、お山（これは現在の校門から中学部生徒ホール辺りまでの位置に当り、高台になっていて椎や榎の木が数十本植わっており、隣接の山尾家から九十九年無償貸与された土地で、狭いながら木蔭での語らいに絶好の場所であった）などを詳らかに参観なされて詩情、曲想を得られたとのことであった。

いよいよ出来上って、全校生徒は何回か大講堂に集められ、当時音楽の先生でいらした松田孝一先生から御指導を受けた。6/8拍子と9/8拍子とが絶えず入れ替わり、音域が広いし、言葉は難かしいし、第一、前奏から言葉に入ってゆく所が仲々うまくゆかない。三部合唱という校歌も珍らしい。「椎よ、榎よ……」という所になるとトントントンと指揮棒が打たれ、「そこは少し早く、早目に



ですよ」との御注意。「日かげ織る この窓のところだんだん遅くします。」此の部分は何度練習し直したことだろう。ところで、最近はこちらを全体と同じテンポで歌っているの、先日創立記念日に松田先生が御来校になられた時に伺ってみたところ、「私は山田耕作先生からじかに教えて頂き、たしかにそこは早く歌うようにということでした」とはっきり語られた。又この曲は元來 G durであるが、ソプラノが高いので一時期 F durに書き変えられ、大分感じがちがうと思っていたが、此の頃又、元通りGに戻ってほっとした。

此の校歌と時を同じくして、英語の校歌も作られた。ヴォーリス氏作詞（本校舎を設計された建築家でもあり詩人でもある。又、近江兄弟社学園の創設者）、中山てるお氏作曲である。詩は実に高貴なもので、日本語の校歌に優るとも劣らないものであると思う。但し、ミス・ハミルトン（当時の校長）は曲がジャズの様だと云ってお気に召さないらしく、絶えて歌われることはなかった。戦後二十年ほど音楽の先生をなさった富岡正男先生にこのお話を申し上げた処、先生の御手で新し

く作曲されたが、最近は余り聞かれない。因みに詩のみを記しておくことにする。

TOYO EIWA SCHOOL SONG

As Maple-leaf and Cherry flower

With beauty clothe the sturdy tree,

May Knowledge which to all is power

And Truth which makes all people free,

Dear Alma Mater, hour by hour

Go forth to bless the world from thee !

To all thy precepts may we hold

Wherever Duty points our way,

And Reverence and Service mold

The aspirations of our day, —

So to our garnct and our gold

We pledge our loyalty alway.

もう一つ、創立八十周年を記念して「東洋英和の歌」というのが出来た。校歌が余り難しいので、幼稚園児や小学生にもよく分かって歌いやすい歌をという事で、当時、永年にわたり国語を教えて居られた鶴沼幸先生作詞、富岡王男先生作曲により発表された。これは十分目的に叶って、小さい人たちが調子よく歌っている。この鶴沼先生が、東洋英和女学院七十年史に、先の校歌が出来るまでの事情を興味深く、感動的に書き残して下さっているのは幸いである。その後の校歌をめぐる動きについて記しておきたいと思い、以上述べた次第である。

~~~~~  
あとがき 昨年の新井・水野先生のお話は長く、ごく一部しか収録出来ないのが残念です。

宮里先生の御前起毫の思い出は『五十年史』に、校歌については五十年記念号の『同窓会会報』に今村寿々代先生が書いておられます。

創立百年を目前にして皆様の一層のお力添えをお願いします。(中・高 沓沢、清野、朽木)

### 東洋英和女学校校友会会則(昭和5年11月改正)

第一条 本会を東洋英和女学校校友会と称す。

第二条 本会の目的は校内に於ける課外の活動を盛ならしめ且つ会員の身心の円満なる発達を計るにあり。

第三条 幼稚園師範科及び高等女学校の在学学生を通常会員とし教職員を特別会員とす。

第四条 本会に左の役員を置く。

一、会長 校長

一、副会長 教務主任

一、部長 職員中より会長之を各部に選定す

一、幹事長 高等女学科五年生より各部一名宛

一、幹事 各級より各部に一名宛

但し、庶務会計部は特別会員のみにて成る。

会長及副会長以外の各役員は任期を一ケ年とす。

第五条 本会に左の部を置く。

一、修養部 一、文芸部

一、運動部 一、庶務会計部

第六条 修養部は会員の修養上必要なる講演会の開催、求道者の集会、宗教上の諸調査、感謝祭、クリスマス集会を掌る。

第七条 文芸部は学術講演、雑誌編纂、学芸会、音楽会等を掌る。

第八条 運動部は課外運動、運動会、遠足、衛生講話等を以て会員の健康増進を計る。

第九条 庶務会計部は会全般に亘る会計の事務に当り諸種用紙類の購入、供給等をも掌る。経費の収支予算は会計部の立案に基き役員会にて決定し学年末に之を会員に報告す。

第十条 会の記録は庶務部に於て管理し、各部は幹事長に於て各々の記録を備えるものとす。

第十一条 通常会員は会費として一ケ年金拾円(一ケ月金一円)を拠出するものとす。

第十二条 会費の半額は遠足の為に積立て残額の一部は更に東洋英和女学校図書部の費用に加えるものとす。